

「完全な者に！」 ～先取り、先手でいける～

マタイ 5:48

Ⅱコリント 5:14~17

私達が誕生日などに口にするケーキ、きれいにデコレーションされたケーキは本当に美味しそうです。そしてプレゼントされるととても嬉しいものです。しかし、そのケーキも形が崩れてグチャグチャになっていたらどうでしょうか。もらっても嬉しいとは思わないのではないのでしょうか。そのケーキから受ける影響は「汚い」「食べる気がしない」など、良い言葉は浮かびません。この様に不完全なものからは良いものが流れません。聖書では崩れたケーキのように不完全な状態を「罪である」としています。私達も不完全にならないように今日も御言葉を聞いていきましょう。私達は先ほどのケーキのように不完全なものを受け取りたくありません。しかし例えば車・パソコンなど、この世の中にあるもので壊れない完璧なものは一つもありません。それは、それらを作っている人間自体が不完全だからです。しかし神が人間を創られた時、人間は完全な姿でした。地球も人間も全てが完全なバランスを保っていました。その完全な状態を不完全にしているのは人間です。自分の欲のために完全であったものを不完全にしているのです。エリシャの時代、ナアマン將軍はらい病にかかりました。この当たらい病は、罪の象徴でした。その時、エリシャは、7度ヨルダン川の水に浸るようには言いました。これは、「自己に死ぬ」というヨルダン川に7回浸ることで完全になりなさいということでした。ナアマン將軍は一度はそのことを拒絶しましたが、結局はそれに従いました。この時ナアマン將軍は完全な者となり癒されたのです。私たちは神様に従うこと、自らが自分に死に、神の前に神が認める完全な姿になることを求められています。それをどのように行っていくか『この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。』（ローマ12：2）神がナアマン將軍に求めたことは「自己に死ぬ」ということでした。神がせよと言ったことがたとえあなたの意にそぐわない事であっても真剣にできるかどうかなのです。それをしないから不完全になっていくのです。これが罪（ハマルティア）なのです。私達は不完全な考え方によって物事をしてるので、最初は完全であったのに少しずつ壊れていってしまったのです。不完全になったものを完全にしていくためには毎日「まっいいか」とダラダラと行っていた事を改めなくてはなりません。「まっいいか」は悪魔の誘惑の言葉です。本当はしたいことがあるのに「まっいいか」と言って流し、忘れようとするのです。これこそ不完全であり、結果、したくないことをしてしまうのです。ではどのように完全にしていけばよいのでしょうか。それはあなたがしなくてはいけないと思うことを真剣に行うことなのです。自分が決めたことを先にすることなのです。神様はあなたを先が見えるものとして創造されました。神と交わることで先が読めるようになっているのです。「ビジョンがない民はほしいままに振舞う」といいます。先が読めることが私たちクリスチャンの特権です。今あなたは先が見えているでしょうか。完全であれば先が見えるのです。完全なものとなるために①悔い改めて新しく。（エゼキエル18：26～31）まずあなたのふさわしくないものを神の御前に悔い改める必要があります。私達のそれぞれの態度にしたがってさばく。と聖書にあります。正しい行いから遠ざかり、悪事を改めなければ、自分の行った不正によって死ぬ。また悪事をやめ、公義と正義を行うなら祝福が約束されているのです。人を指差す前に自分自身が悔い改めなければなりません。人を指差す事は神をさばく事になるからです。神の前に完全であったか聞いて下さい。神は誰も死ぬ事を喜ばれません。神は悔い改めた者の②**霊と心を新しくされます。**（エゼキエル36：23～27）悔い改めて新しくされた者は神の前に出ることができます。『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』（Ⅱコリント5：17）とあるようにすべてが新しくなるのです。神様が私たちを聖めてくださいます。そしてそのためには神様の十字架が必要です。あなたが失敗したとき、人を責めたりとやかく言ったりするのではなく、まず神様の前にあなたが心を向けて神様にゆるさってください。ゆるされれば人をゆるせます。もし今人を裁いているなら、あなたの罪は赦されていません。なぜなら人は自分の罪を隠すために裁くからです。神にゆるされ神の前に出て、その上で③**新しい感謝と賛美を捧げましょう。**あなたの周りにいつも賛美があるでしょうか。あなたのスタイルで賛美をささげてください。『感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。』（詩100：4）あなたの方法で賛美をささげましょう。赦される事を信じて悔い改める事も賛美の一つです。しかし、同じ事ばかりを繰り返してはいけません。ダビデはいつも主の前に感謝を探しいつも新しい賛美を捧げていました。ダビデはいつも神を体験していました。『主のよくして下さった事を何一つ忘れるな。』ダビデは自分に言い聞かせていたのです。日々新しくなってください。自分が神の前にちゃんと出られるかどうか、「まっいいか」がないかどうか、神の前に出られる準備をしてください。そして神の前に、自らが正しいものであるかどうか判断できるものを何か持って下さい。『新しい歌を主に歌え。主は、奇しいわざをなさった。その右の御手と、その聖なる御腕とが、主に勝利をもたらしたのだ。』（詩98：1）この結果、いつも先手、先取りできます。ダビデはいつも先手でした。その秘策はいつも栄光を神に帰する事でした。ダビデはいつも神の前に出て忍耐をもって時を待ち、従順にその計画に従い、かつ先手でした。私達もダビデのようにいつも先手であるべきです。過去にしばられている人に将来はありません。神はあなたを赦しているのです。神は過去を二度と思い起こす事はありません。ですから悔い改めて下さい。そしてあなたも赦されたのなら、人の罪を思い起こして責めてはいけません。その時点であなたの罪もまた復活してしまいます。子どものように素直に神の前に出て下さい。子どもは悪かった事をすぐ謝る事ができます。私達もそうであれば、神の国を相続するものとなり、いつも賛美が湧き上がるようになります。そうなれば、いつも冷静でいられます。神の前に出られる賛美をいつもあなたの傍に置いて下さい。そしていつも新しい奇跡を体験してください。どうでもいい事にとらわれていると奇跡に気づけません。あなたの心に一筋の光を照らすものが賛美なのです。完全な者となり、いつも先手でいける者となりましょう！